

研究タイトル：

唐代文学研究／漢文教育／学習支援



氏名： 鳴海雅哉 / NARUMI Masaya E-mail: m-narumi@hakodate-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 修士(教育学)

所属学会・協会： 日本中国学会、中国文化学会、全国漢文教育学会、函館人文学会 等

キーワード： 杜甫、韋荘、晩唐、詩詞、漢文教育、松前漢詩、学習支援

技術相談
提供可能技術：
・漢文読解について
・国語科教育全般について
・学習支援全般について

研究内容： ①唐詩・詩語の研究、②漢文教育の意義の追究、③、効果的な学習支援の研究

①唐代にもっとも盛んに行われた「詩」(一般的には「漢詩」と呼ばれる)について、I 前時代の作品が唐詩にどのような影響を与えたか、II 唐詩・詩語・詩人がどのように後代に影響を与えたかについて研究している。

具体的には、I については、詩に用いられる詩語が、どのような来歴を経ているのか、詩にはどのような意として用いられているかに関心を持っている。

※参考

・鳴海雅哉「韋荘の詠ずる夕暮れの風景について—「夕陽」を中心として—」(「北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編)」、第 60 巻第 2 号、2010 年 2 月)

・鳴海雅哉「韋荘の詠じる「雲(白雲)」について」(「新しい漢字漢文教育」、第 51 号、2010 年 11 月)

II については、特に晩唐期(836～906 年)の詩人たちにとって、杜甫(712～770 年)がどのような存在であったか、杜詩がどのような影響を与えたかに興味がある。

※参考

・鳴海雅哉「晩唐詩人韋荘における杜詩の影響」(「中国文化」、第 69 号、2011 年 6 月)

②現代の中学校・高等学校国語科カリキュラムにある「漢文」分野の現代的意義を追究しながら、時代と生徒に合った授業法や指導法などを探っている。

※参考

・鳴海雅哉「これからの漢文教育への一視点」(『北海道から 生徒がいきる高校国語科の授業実践』、共同文化社、2006 年 5 月)

・鳴海雅哉「PISA型「読解力」育成における漢文教育の可能性」(「函館国語」、第 22 号、2006 年 11 月)

・他、教科書指導書等を執筆

③学習意欲に乏しく、学習時間が減っている現代の学生(生徒)にとって、どのようなアプローチで臨めば学習しようとするのか、どのような環境を用意すればよいのかなど、高等教育機関としての学習支援のあり方について研究している。

※参考

・鳴海雅哉「これからの高専における学生指導について—学級担任論—」(「函館高専紀要」、第 47 号、2013 年 3 月)

・鳴海雅哉「函館高専「学習支援室」の設立と現状について」(「論文集「高専教育」」、第 37 号、2014 年 3 月)

・鳴海雅哉「函館高専『コミュニケーション科目』の意義と方向性について」(「函館高専紀要」、第 50 号、2016 年 3 月)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	